



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

2025 年 今年の漢字は「熊」

相次ぐクマ被害

近年、クマの出没は山間部に限らず住宅地や通学路、商店街など生活圏へ広がり、襲われてけがをする人身被害や死亡事故、家屋への侵入、ゴミ荒らし、家畜やペットの被害、果樹・畑作の食害といった具体的な被害が相次いでいます。玄関先や車庫で鉢合わせして転倒・骨折する例もあり、被害は高齢者や子どもにも及びます。

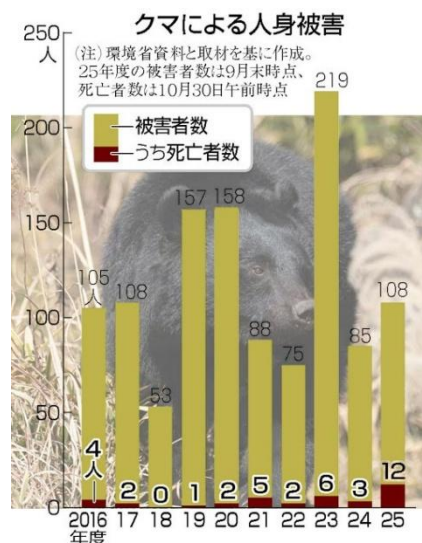
クマによる人身被害は 209 件・被害者 230 人・死亡 13 人に達し、前年と比べて、件数は約 2.5 倍、被害者は約 2.7 倍、死亡は 4 倍超へ急増しています。(2025 年 11 月末まで)

背景にはブナ類の凶作などによる餌不足、人里の誘因(生ごみ・落果・餌付け)に加え、温暖化で活動時期が長引く可能性も指摘されます。対策としては、食べ物を屋外に置かない、落果を放置しないなどの基本を徹底しつつ、地域ぐるみでの誘因除去と出没情報の共有が欠かせません。

今年の漢字

「今年の漢字」は、「日本漢字能力検定協会」がその年の世相を表す漢字ひと文字を一般から募集し、最も多かった字が選ばれます。

1995 年から行われていて、31 回目となることは、先月 1 日から今月 9 日までの間に応募があった 18 万 9000 票あまりの中から最も多い 2 万 3346 票を集めた「熊」の文字が選ばれました。清水寺では 12 月 12 日、森清範貫主が大きな和紙に「熊」の字を書き上げました。



各地で「熊」が出没して被害が拡大し、国民の関心と不安が集中したことにより、今年の漢字は「熊」に。

「今年の漢字」は私の地元で行われることもあり、1 年の中で最も気にしているイベントでもあります。万博開催や初の女性首相誕生など印象的なことが多かった 2025 年は何が選ばれるのだろう、と以前から気になっていたのですが、「熊」と聞いたときは本当に驚きました。ただ、思い返せば数年前から、私の住んでいた地域でも「クマ出没」の看板を見かけることが増え、家族が実際に熊を目撃したこともあります。幼いころに駆け回っていた山に出るほど、熊にとっての生活範囲が変わってしまったのかと思うと、やはり驚きます。都会に住んでいたり、特に海外で暮らしていたりすると、こうした変化は実感しにくいかもしれませんが。熊の駆除には賛否がありますが、「いつものあの場所が」「家族のいる場所が」危険にさらされていると考え、どんな対策をしていくのが正解なのかという考え方は、これまでとは違って見えてくるのかもしれない。

来年は、明るい意味をもつ漢字が選ばれるといいなと思います。(西出)